

来週の「売り物」記事はこれ



2011年7月22日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

子どもの運動と食を見直そう くらしナビA面 25日(月)



今の子どもたちは肥満とやせ型が増えているそうです。原因は体を動かす習慣がないことや栄養摂取の偏り。夏休みを機に、子どもの生活スタイルを見直してはどうでしょうか。子どもに運動習慣を身につけさせるための方法や食生活のさまざまな工夫をお伝えします。

東日本大震災暮らしどうなる・浪江町の夫婦は今②

くらしナビA面 27日(水)

福島原発の事故で福島県浪江町を離れ、東京都江東区で暮らし始めた夫婦の生活を追う第2段です。夫は江東区の臨時職員、妻はビルの清掃に着いたものの、慣れない仕事で苦勞の毎日。でも浪江町の仲間とも交流し、少しずつ元気を取り戻す二人の今を紹介します。



進む「バリアフリー上映」 くらしナビA面 26日(火)



視覚障害者が映画鑑賞を楽しめるよう、映像を言葉で説明する「音声ガイド」のサービスが全国的に広がっています。一般の劇場ではまだ少ないものの、市民団体などが独自に展開している音声ガイドサービスのさまざまな活動を取り上げます。

運動面企画「インサイド」

— 五輪を待つロンドン「1年前」の姿をレポート —

27日から連載

ロンドン五輪が来年7月27日の開幕まで、いよいよあと1年となりました。近代スポーツのふるさとといわれる英国での開催。日本人にもなじみの深い歴史的な都市で開かれる祭典でもあります。いま、この街はどのように大会の準備を進めているのでしょうか。五輪をきっかけにした都市再開発計画や、教育・スポーツ活性化のプランが進められ、市民の健康志向に触発された自転車ブームも巻き起こっているようです。「1年前」の実像を現地からレポートします。運動面企画「インサイド」で27日から5回を予定。



「体協」と「JOC」の存在意義は？

26日



国民のスポーツ振興などにかかわる日本体育協会と、トップアスリートを支援する日本オリンピック委員会（JOC）は、日本スポーツ界の両輪といわれています。しかし、両者が別々に活動することは、国民にとって本当に有益なのでしょうか。26日掲載予定の月刊特集面「スポーツ 100年 現在・過去・未来」では、スポーツ振興と国際競技力向上について、両団体の果たすべき役割を考えます。

高校スポーツの祭典がいよいよ開幕

— インターハイ北東北大会が開幕 —

「北の空 君に無限の可能性」をスローガンに掲げた全国高校総合体育大会（インターハイ）北東北大会は28日、青森市の新青森県総合運動公園での開会式で幕を開けます。東日本大震災の被災地、岩手、宮城を含む東北4県が会場。29競技で、全国の予選を勝ち抜いた選手をはじめ、役員、高校生ボランティアら約6万人が参加するビッグイベントです。今回は、震災の打撃から立ち上がった選手たちも出場し、8月20日までの25日間にわたって熱戦を繰り広げます。震災からの復旧、復興を目指す人々に元気を与えるはずの若者の姿を、現地で取材する記者たちが日々、紙面でレポートします。



連載「辛亥革命 100年 未完の大国」

第2部「人間・孫文」



近代中国の父、孫文＝写真＝が理想の共和国建設を目指した辛亥革命（1911年）。今年10月で100年を迎えるのを期に、毎日新聞は今年初め、連載「辛亥革命 100年 未完の大国」の第1部を掲載しました。今回はその第2部として「人間・孫文」にスポットを当て、孫文にまつわるエピソードを紹介しながら、それが現代の日中関係にどう引き継がれているのか、などを3回シリーズでお伝えします。

日はまた昇る——。

「ああ、気仙沼よ！」

夕刊特集ワイド面 26日（火）

優良な漁場を抱え、全国トップクラスの水揚げ高を誇っていた宮城・気仙沼。ところが、3月11日の東日本大震災を境に一変しました。巨大津波によって壊滅的な打撃を受けたのです。被災から4カ月が経過するなか、人々は徐々に立ち上がろうとしています。希望の星になっているのが「日本一」のカツオ漁の復活です。カツオ漁の再開に気仙沼の人々が寄せる思いを軸に、悲しみや絶望を乗り越えて、明日のみを信じて立ち上がろうとしている、誇り高き「気仙沼」をルポしました。



“知りたいが分かる、がモットーの夕刊「特集ワイド」に、ご期待下さい。

紙面事情などにより掲載日が変更になることがあります。